



目指す府中の将来像

府中市が目指す将来像を総合計画で創り、その将来像への道筋を計画・ビジョンで示します。

スポーツ推進計画

健康ふちゅう21

地域福祉計画

障害者福祉計画

子ども・子育て支援事業計画

グランドデザイン

地域IoT実装計画

産業振興ビジョン

観光振興ビジョン

第5回目1月広報掲載

第4回目12月広報掲載

第3回目11月広報掲載

第2回目10月広報掲載

第1回目9月広報掲載

第6回目 第3期障害者福祉計画

これからの府中市の在り方として、障害のある人もない人も、ともに過ごしやすいまちづくりに主体的に参加していくこと、就労やスポーツ、地域活動などのさまざまな場面で誰もが自分らしく活躍できることが望まれています。そのためには、支え手や受け手という関係が固定されず、誰もが主体的に支え合いに参加し、地域で活躍できる共生社会の実現が必要です。

府中市障害者施策の課題

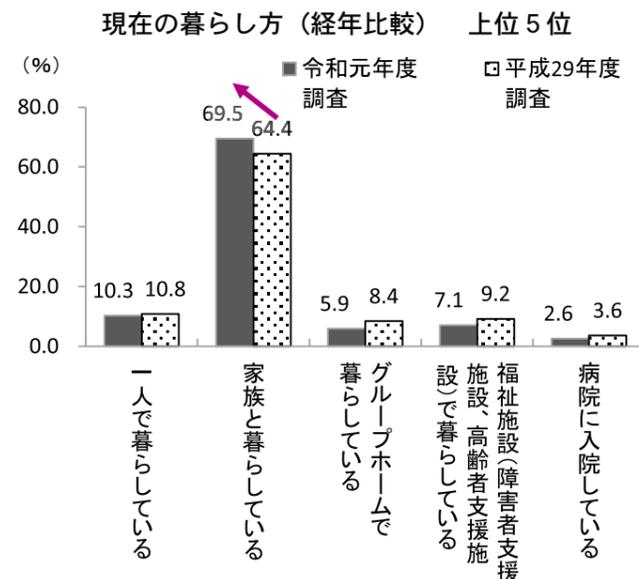
優先的に改善を必要とする項目を把握するために、各施策の満足度・重要度を分析・比較しました。

各項目に関する満足度・重要度

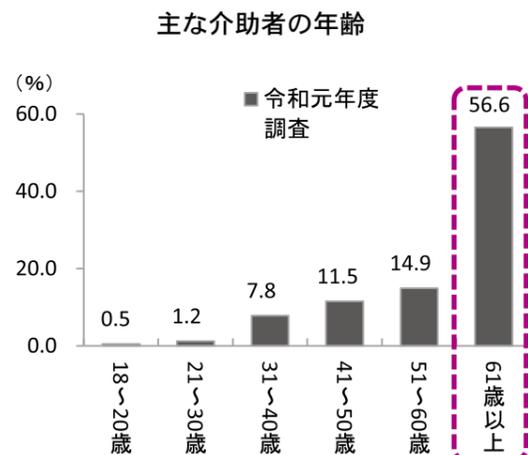
	重要度が高い	重要度が低い
満足度が高い	<ul style="list-style-type: none"> 相談支援先や支援体制 医療・リハビリテーションの体制 障害福祉サービスの提供 早期発見・早期医療の支援 	-
満足度が低い	<ul style="list-style-type: none"> サービスに関する情報発信 就労に関する支援 	<ul style="list-style-type: none"> 住民の障害や障害のある人への理解 障害のある人となない人の交流機会

日常生活について

現在家族と暮らしているが約7割と高くなっており、今後の暮らし方の希望も、家族と一緒に暮らしたいが6割でした。



主な介助者の年齢は、61歳以上が5割を超えており、介助者の高齢化が進んでいる現状が分かります。



共生と自己実現

～つながりと個性が輝くまちふちゅう～

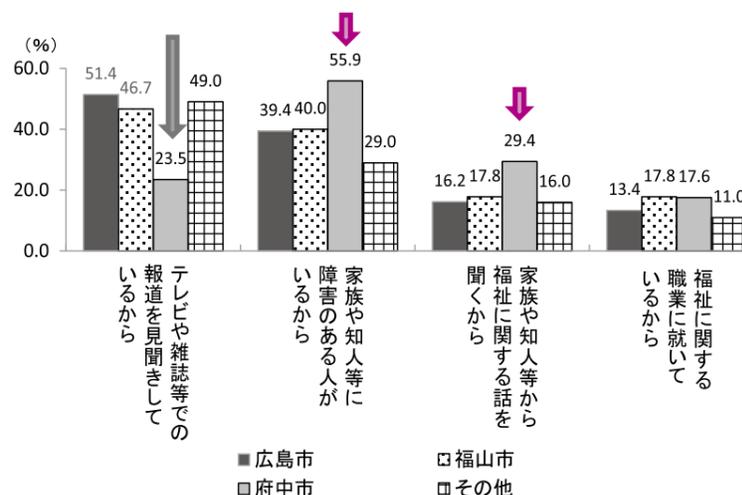
第3期計画では、誰もが等しい選択や機会が確保されるように平等な環境づくりを進めるとともに、その中で障害のある人が自らの個性の尊重や能力を活かした活動を実現できることと、地域住民と共に支え合うことを目指します。

第3期計画の基本理念は、「共生と自己実現」へと拡張し、また、基本理念を踏えた市民にとっての共通の指針、計画が目指す将来像として「つながりと個性が輝くまちふちゅう」を設定します。

障害のある人への関心

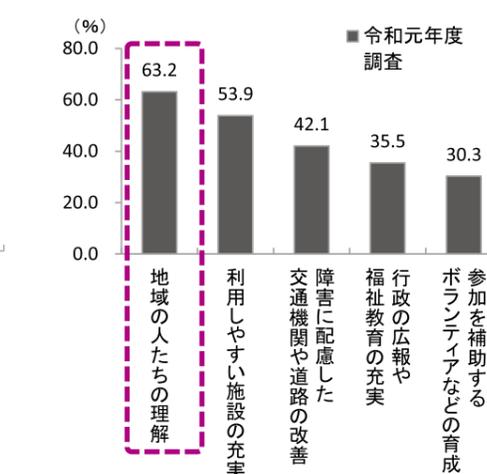
障害に対して関心を持っている理由として、府中市民は他の市町に比べて、家族や知人等に障害のある人がいるからや家族や知人等から福祉に関する話を聞くからの回答が多い一方で、テレビや雑誌等での報道を見聞きしているからという回答が低くなっています。

障害のある人へ福祉に関心がある理由：上位4位(居住地別)



障害のある人が身近な地域で暮らしていくためには、地域の人たちの理解が必要という認識が多く、障害のある人への調査結果と同様の傾向にあります。

障害のある人が身近な地域で暮らしていくために大切なこと：上位5位(府中市居住者のみ)



主な施策の展開

雇用・就労の促進

障害のある人が自立して地域で暮らすためには、就労意欲や能力、適性を活かして活躍することができる就労の場や働き続けられる環境づくり、支援体制が必要です。

障害者就労施設などの製品の優先的な調達や、働く場での配慮の啓発など、関係機関と連携して取り組み、障害のある人の雇用の拡大を目指します。



交流・ふれあいの場所づくり

障害のある人とない人の交流機会は両者の相互理解を深め、また、相談や情報共有により不安の解消や、地域におけるつながりの醸成となります。

障害の有無に関わらず、誰もが自分らしく活動を共にできる機会を充実し、共生社会の実現を目指します。

福祉サービスの充実

障害のある人が地域で安心して暮らすためには、必要とする福祉サービスを適切に受けられる環境が必要です。

また、身体障害、知的障害、精神障害や難病、発達障害など、さまざまな障害の特性や状況に配慮した支援が求められています。

誰もが身近な地域で暮らし続けることができるよう、生活に関する支援や設備および情報発信に取り組み、ニーズに応じた福祉サービス提供体制の整備に取り組みます。